

第1章：中区地域計画について

1. 策定の趣旨

■ 中区地域計画 2021→2025

中区では、令和3（2021）年3月に「中区地域計画2021→2025」（以下「前計画」という。）を策定し、中区のめざす将来像に「～みんなが安心を感じ、魅力をつなぎ、活力を生む～成長の歩みを止めない中区」を掲げ、将来像実現に向けて、安心、魅力、活力など様々な分野の取組を進めてきました。

特に、将来像実現をけん引する先行的取組の「（仮称）深井駅周辺地域活性化プロジェクト」は、深井駅周辺地域活性化事業基本構想を令和4（2022）年7月に策定の上で、中区の新たなシンボルとなる水賀池公園の整備を令和7（2025）年1月に工事着手し、令和9（2027）年度の施設の完成に向け、着実に取組を進めています。

■ 社会情勢・中区政の変化

前計画策定時から中区の人口は、令和7（2025）年度時点において想定していたよりも減少しており、更に高齢化の加速が予想されます。

また、令和6（2024）年1月の能登半島地震や同年8月の南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）の発表、全国各地で線状降水帯による大雨の被害など、頻発化・甚大化する自然災害への備えや、高齢者を狙った特殊詐欺等による被害の急増への対策を強化することが必要です。

さらに、幅広い年代のSNS利用が増加しているため、SNSを活用した情報発信も重要です。令和2（2020）年から流行した新型コロナウイルス感染症の感染拡大及び5類感染症への移行は区民の生活に大きな影響を及ぼし、人々の価値観や行動、生活様式が変化し、ニーズが多様化しています。

加えて、社会的孤立、こどもの貧困、ひきこもりの長期高齢化といった複雑化・複合化した課題が顕在化し、一つの機関では対応することが困難な事例が増えているため、属性や課題にかかわらず相談を受け止める包括的な支援体制の構築が求められています。

なお、令和4（2022）年11月に発生した中区生活保護受給者の方が暴行死された事案について、決して風化させることなく二度とこのようなことのないよう取り組んでいます。

これらを踏まえ、様々な課題に柔軟・的確に対応できる持続可能な区政の推進が求められます。

■ 中区地域計画 2026→2030の策定

前計画の策定から5年が経過し計画期間が終了することから、前計画の各施策のKPI（重要業績評価指標）の評価を行った上で、社会情勢・中区政の変化を踏まえ、10年後を見据えた中区の将来像や令和12（2030）年までの今後5年間の区政運営の方向性等を取りまとめた「中区地域計画2026→2030」を策定します。

中区が持続的に成長し、中區に暮らす人たちが安心して暮らし続けることができるよう、中區に暮らす人たちが地域活動の担い手、民間事業者、行政等の多様な主体が本計画を共有し、その実現に向けて取組を推進します。

2. 中区地域計画の位置づけ

本計画は、中区の特色や独自性を踏まえて策定します。

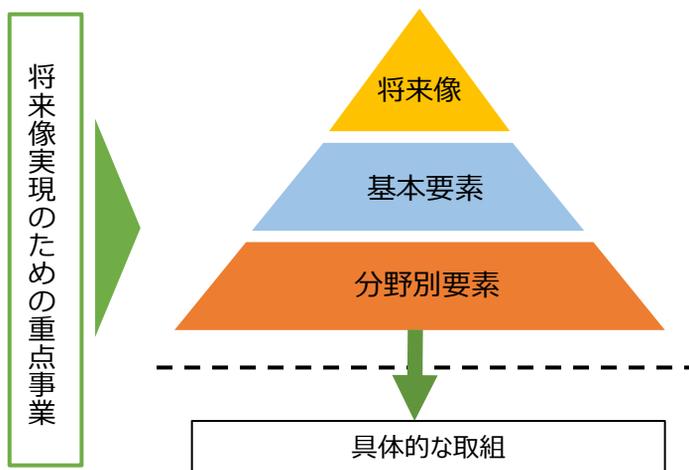
「堺市基本計画2030」を上位計画とし、「堺市SDGs未来都市計画」、「堺市都市計画マスタープラン」や「区役所と本庁のあり方基本方針」などの計画等と整合を図ります。

3. 構成

中区のめざす将来像を構成する基本要素や分野別要素と、将来像実現のための重点事業を下図で示します。また、それぞれの要素に関連する個々の具体的な取組については、毎年度「中区アクションプランリスト」を作成し、取組状況を評価します。

なお、本計画では、深井駅周辺地域活性化事業を「将来像実現のための重点事業」として新たに位置づけ、水賀池公園の機能強化と地域資源を活かした取組の連携により、深井駅周辺地域を活性化し、その効果の中区全体へ波及させるように取り組みます。

【構成イメージ図】



4. 計画期間

本計画の計画期間は、令和8（2026）年度～令和12（2030）年度とします。

【計画期間のイメージ図】

